

twitter小說作品集

【SF小說】

家政婦

実業家の男が死んだ。1人暮らしで、家政婦型ロボットが世話をしていた。親戚はいない、男の財産は国になる。それまで、家の管理はロボットがすることに。夕方の台所、誰も食べるこの無い夕食をロボットが作っている。今日も明日も・・・

二つの種族

二つの種族が霸権を争っていた。小さい種族の会議。「彼らを攻撃すべきべきだ！」誰かが言った。「我々を滅ぼすことはできない。三億年も栄えてきたのだから。彼らと同じレベルの争いをすべきではない！」小さい種族、昆虫ゴキブリ目ゴキブリ科ゴキブリ

太陽を見つめて

50億年後の地球、太陽を見つめて彼は思う！ もうすぐ太陽が膨張して地球は滅びる！ 彼が生きている時代かは判らない！ また思う、すでに滅びた生き物のことを！ 昔、他の生き物を栄養源としていた生き物がいたらしい！ 緑色の顔を太陽に向けたまま思う

タイムマシン

長年の研究によりタイムマシンが完成した！試運転として西暦1600年10月21日の関ヶ原に行って、関ヶ原の合戦を観戦してみることにする。着いた！斬られた！タイムマシンの形がまずかったみたいだ。瓢箪型！瓢箪は豊臣の・・・

アンドロイド

レナが帰って来た！死んだ人間が生き返る訳はない。脳が死ぬ前に記憶をアンドロイドへ移したものだ！　彼が道路を渡り帰って来た！と、ダンプが・・・全速で走りダンプの前へ！彼が覗き込んでいる。助かった！でも私は・・・涙が出る！涙？ただの冷却水のはず・・・

見渡すかぎりの森林

見渡すかぎりの森林！木々の間を歩きながら落ち着いた気分になる。空を見上げれば青い惑星。地球だ！ここは、惑星改造中の火星！地球にはもはや無い森林がある。ただ大気の成分がまだ違う為、宇宙服を着なければならないのが残念である！

飛行機が飛んでいる

夜、空を見上げると飛行機が飛んでいる。これで音がしないとUFOに見えなくもない・・・「飛行機音を流して正解でしたね！地球人は飛行機だとおもっているから！」とUFO乗組員の異星人。

赤い星

夜空を見上げると、赤い星が見える。赤色巨星だそうだ。祖先があの恒星系からこの恒星系に移住してきたと言われている。不思議におもう。我々はこの星の生物が普通持っていない目を持っている。光の無かったこの世界で、どうして一部の生物が目を持ったのだろう！

親善訪問

異星人から地球を親善訪問したとのコンタクトがあった。「歓迎します！」と返信した。異星人の訪問が有った直後、人類は病気で滅亡した！ 異星人「やはり我々がウイルス型知的生命体だったせいか！」

猫型異星人

猫型異星人が地球を侵略して來た！異星人の方が文明が發達しており、地球人は劣勢を強いられた！そんな時、ある将校が異星人を擊退した。方法を聞かれて将校「猫の習性を利用したのです！猫は箱に入りたがる！」箱型の捕虜収容所へぎっしり入っている異星人

将来予想

中学の同級生がいた。僕も中学生だ！タイムスリップ？　いや！違うみたいだ！頭に何かの装置をかぶっている。とりあえず外す。「と言う訳で、皆さんのもっとも可能性が高い将来予想を見てもらいました」・・・僕は13歳で将来の夢を無くした！

孵化に成功

火星で生物の卵らしきものが見つかった！それを探査機が持ち帰った。孵化に成功する！　　数年後、ある家庭で「あなた！火星ゴキブリがいた！潰して！」「逃げられた！いつ見ても気持ち悪いものだな！」

この星の住人

調査を終えた宇宙船の中、乗組員の会話。「この星の住人がここまで野蛮だったとは！撲殺されるところだった！」「お前はまだマシさ、俺なんか毒ガスを振り掛けられそうになつたぜ！しかし、無人調査ではそんな感じでは無かったのにな！」とゴキブリ型知的生命体

生まれてこなければ良かった

「私なんか生まれてこなければ良かった！」と少女は言った。　　このようにシュミレーターは精子提供者と卵子提供者の組み合わせできる子供の可能性の高い人生を予測し、人工受精プランに役立てようとするものです。　まあ！この組み合わせは避けた方が無難ですね！

送り物

別の星系の惑星から送り物が届けられた！蟹だった！何で蟹と思いながら、美味しく頂く！
・「気に入ってくれたかな？我々が送ったペット！」甲殻類から進化した宇宙人！

1億年後の世界

タイムマシンで1億年後の世界を訪問してみた！大きな建造物の中だ！獣の咆哮みたいな音と共に大きな柱が向ってくる！ 「キャー！」 「あなた！虫みたいのがいたの！」 と言いつつ新聞紙で叩き潰す！人類は今より遥かに巨大になっていた。

この世の全てが解った

博士が言った。「人間は脳を5%～10%しか使っていない。この薬は脳を100%使えるようになる薬だ！」僕は博士に頼んで薬を飲んだ。すごい効き目だ！この世の全てが解る気がする！この世の全てが解った・・・そして絶望・・・

試作品だから

博士「ついにタイムマシンの試作品が完成したぞ！」 研究員「随分と小さいですね？」 博士「まだ試作品だから。このマウスを10年後に送るぞ！」 そして、タイムマシンは消えた。研究員「確認する方法は？」 博士「え！・・・10年待つしかないか」

精子を保存

精巣癌になり精子バンクへ精子を保存することに・・・ある実業家から私の精子を買いたいと申し出があった。金に困っていた私は承諾する。半年後、実業家の会社からクローン召使が発売された！今日も私は町に溢れる私そっくりな奴隸達を見ながら生活している・・・

太陽の方向を向く

夜が明けた！黄色い大きな花が太陽の方向を向く！地球から持ってきた植物、たしか向日葵と呼ばれていた。まもなく、もう一つの太陽が上がる。二つの太陽の間を行ったり来たり。ここでは、首降り草と呼ばれている。

災害時の影響

ついに身体を小さくする機械を発明した！早速、使ってみる。私の身体は5 cmぐらいになる。そのまま外出する。しまった！台風だった。風に飛ばされながら思う。身体が小さくなつた分、災害時の影響も大きくなるんだな。この点は要検討だな生きて帰れたら・・・

階段で寝てしまう

友人達と飲みに行った帰り駅の階段で寝てしまう…「おい起きろ！」とそいつは言った。もう敵への襲撃の時間だ。そいつ、かつての友人、今の上官は言う。「幸せそうに眠っていたので起こすのを躊躇った！」…数ヶ月前、突然変異したゴキブリ族との戦いはづづく

火星人の亡靈

ここは火星。私は滅びさった火星人の亡靈。地球人の移民が始まった。地球の環境破壊が進んだ為だ。彼らは火星を改造して昔の地球に似た環境を作り上げた。私は愚かしいと共に懐かしい気持ちで彼らを見守る。彼らは知らない！かつて火星人が地球へ移住したことを！

火星人の亡靈

ここは火星。私は滅びさった火星人の亡靈。地球人の移民が始まった。地球の環境破壊が進んだ為だ。彼らは火星を改造して昔の地球に似た環境を作り上げた。私は愚かしいと共に懐かしい気持ちで彼らを見守る。彼らは知らない！かつて火星人が地球へ移住したことを！

青空を見つめる

寝転がって青空を見つめる。気持ちが楽になった気がする。起き上がって環境映像のスイッチを切る。たちまち青空が消える。窓から外の景色を見る。赤銅色の空が広がっている！風も強そうだ！そこは既に生身の人間の立ち入れる世界ではない！

娘が私の手を引く

娘が私の手を引く。「パパ！ママと一緒に公園へ行こうよ！」躊躇したが出かける。この子には罪はない！妻もその方が喜ぶ！…娘が交通事故で亡くなった時、クローン技術と発育促進剤を使い、娘の記憶を植え込んだもの。それがこの子だ！私は笑顔を顔に貼り付ける！

俺は金欠

23世紀。タイムマシーンは一般化され個人でも使われるようになった。俺は金欠で給料が入ったばかりの俺に金を借り行った・・・借りて来た金を見ながら思う。もともと給料日に未来の俺に金を貸したのが原因で金欠に...あれ！最初に借りた俺は何で金欠に...